

# 文部科学省後援 全国高等学校家庭科被服製作技術検定 被服製作資料のご案内

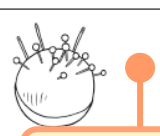
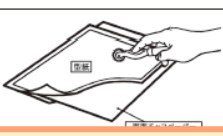

被服製作の基礎から応用まで、イラスト入りで解説しています。

1セット ¥2,200

被服検定はもちろん、家庭基礎・家庭総合の被服実習にも活用いただける内容で

## 被服製作の基礎・基礎縫い

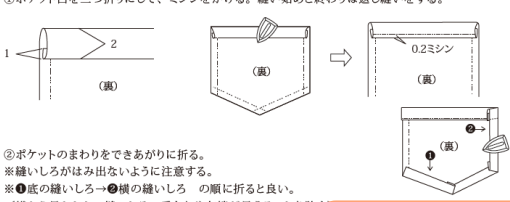
## アウターパンツの製作

ピンクッション(針山)	布用複写紙(チョークペーパー)	ルレット
手縫い針やまち針を刺しておく。	布の間にはさんでしるしつけに使用する。両面と片面複写がある。	しるしつけに使用する。歯のとがったもの(ハード)と丸いもの(ソフト)がある。
		

製作用具や裁ち方など、基本的な知識をイラスト入りで説明しています

(2) ポケットづくり・ポケットつけ(ポケットの形はベース型、四角)

① ポケット口を三つ折りにして、ミシンをかける。縫い始めと終わりは返し縫いをする。



② ポケットのまわりをできあがりになるように折る。  
※縫いしろがはみ出ないように注意する。  
※①の縫いしろ→②の縫いしろの順に折ると良い。  
(横から見たとき、縫いしろの重なりや布端が見えることを防ぐ)  
③ ポケットをつけ位置に置き、ミシンをかける。  
※ポケット口どまりは角どめ、三角どめのどちらかにする。  
※縫い始めと終わりは重ね縫い、または返し縫いをする。


④ (3) わき縫い・また下縫い

① 前後のパンツを中表に合わせて、わき・また(ゴム通し口をわきに作る場合は、左わきを

製作上押さえておきたいポイントは、拡大図で解説しています

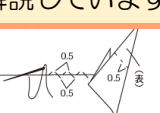
(1) 手縫いの基本

指ぬきのはめ方  
中指の第一関節にする。この位置に使いやすい大きさのものがよい。

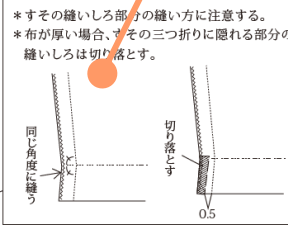


① 人差し指に糸をひらきささせる。 ② 親指の上でずらしながらよじる。 ③ より合わせたところを中指で押さえて糸をそのまま引く。

針の持ち方から、基礎縫いまで解説しています



\* その縫いしろの縫い方に注意する。  
\* 布が厚い場合、その三つ折りに隠れる部分の縫いしろは切り落とす。



## 洋服(シャツ・ブラウス、ジャケット)の製作

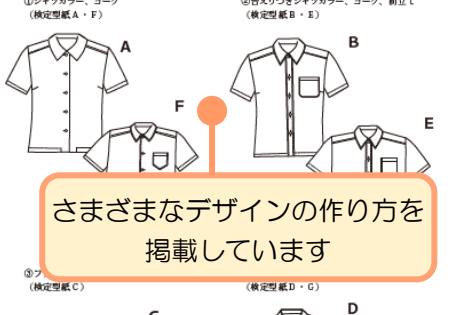
## 和服(じんべい、ひとえ長着)の製作

製作方法の他、和服の基礎知識、和服のたたみ方の手順など、普通科でも学ばせたい知識をイラストで分かりやすく解説をしています

5 デザインの選択(検定型紙使用)

検定では、「そでとえりをつける」、「あきめは前後どちらでもよい」などの条件がある。

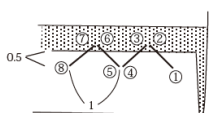
① シャツカラー、ヨーク (検定型紙A・F) ② 台えりつきシャツカラー、ヨーク、前立て (検定型紙B・E)



さまざまなデザインの作り方を掲載しています

ジャケットの種類

③ そで口を略千鳥または返し縫いで表にひかないように ④ あきみせのダーツを縫う。 ⑤ あきみせの縫いしろは前そで側へ片返し、あきみせの部分(P.102参照)




初めてでも製作出来るよう、具体的に説明しています

1 じんべいの特徴とデザイン

じんべいは、近頃時代劇に用いられることで広く知られることで、肩幅を中心に広げられたものである。今の形になったのは大正の末期で、下着の人の間で広げられたが肩幅が縮小して着た。肩幅の縮小がもたらした。本来はひざの下の裾に紐を縫って、短い裾まで伸ばしてはいたのが普通であった。裾に紐を縫うために裾を縫って、えりやわきや袖口の縫いしろを縫いつけ、縫い合わせで縫った。最近のじんべいは縮小したデザインのものが多いとされている。

2 名称(作製使用、おくみなしの検定)

(1) 女物ひとえ長着の各部の名称



授業などで活用しやすいように、全てイラストで解説しました。写真では分かり辛いポイントも、イラストで分かりやすく説明しています。